

# 令和4年度小平市立花小金井小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

平均正答率は、都、全国平均を上回っている。また、誤答数1～2問の割合が高く、全体的に学習内容が定着している様子が見られる。特に、思考・判断・表現の観点では全国平均を10ポイント上回り、中でも「読むこと」の正答率が高い。

#### 課題

知識・技能に関すること全般においては、全国、都平均を上回ってはいるが、学年別配当漢字を正しく使えているかを問う問題と文章のよいところを見つける問題については、正答率の伸びが鈍く、無回答率も高かった。

#### 学校で取り組む具体的な改善策

配当漢字や言語に関する理解については、授業中だけではなく、朝学習・家庭学習などでドリル学習に継続的に取り組ませることで確かなものとしていき、正しく使用できるようにする。また、文章のよいところを見付ける力をつけるために、文章全体の構成や展開が明確になっているかなどの観点から、具体的に感想や意見を伝え合う活動をさらに増やしていく。

### 【算数】

#### 状況の分析

平均正答率は、都、全国平均を大きく上回っている。また、全問正答～誤答2問の割合が高く、全体的に学習内容が定着している様子が見られる。知識・技能、思考・判断・表現のいずれの観点に関しても全国平均より10ポイント正答率が高い。

#### 課題

今回出題の数と計算、図形、変化と関係、データの活用 の4領域に関しての平均正答率もバランスよく高い数値を得ているが、数と計算の「示された場面を解釈して求め方の理由を記述する問題」については正答率が都平均並となっており、他の問題と比べると正答率が下がっている。

#### 学校で取り組む具体的な改善策

児童自身が日常生活の中から問題を見つけ、算数で学習したことを基に、目的に応じて数の処理の仕方を考えることができるように、授業の展開をさらに工夫する。習熟度別コースごとに、児童の実態に沿った課題設定をし、児童一人一人が自分なりの課題解決に取り組めるようにする。また、ICT教材を活用して、具体的な場面に対応させながら、数量の関係に着目して式に表したり、解き方を説明したりできるようにしていく。

**【理科】**

## 状況の分析

## 課題

平均正答率は、都、全国の平均を5ポイント以上上回っており、全体的には学力の定着が見られる。正答率分布では、17問中全問正答～15問正答の割合が都、全国平均を下回っているが、正答数が6問以下の割合も低く、主に1問～14問正答の児童が多く分布している。

エネルギー、粒子、生命、地球の4領域に関しても、知識・技能、思考・判断・表現の観点に関してもバランスよく成果を上げているが、昆虫のからだのつくりや実験器具に関する知識問題についての正答率が低かった。

## 学校で取り組む具体的な改善策

児童が予想や仮説を基に、複数の生物について繰り返し観察したり、他者などに説明したりする活動を多く取り入れることで、昆虫の体のつくり等についての児童の理解を深めさせる。また、器具の名称を確認し、器具や機器などの操作にどのような意味があるのかを理解した上で目的に応じた実験を行い、知識及び技能を高めながら問題を解決していく授業を進める。さらに、教科担任制など指導体制を工夫し、より一貫性の高い授業づくりに努める。

**【質問紙】**

## 状況の分析

## 課題

全体的に生活習慣や学習に関して肯定的な回答をしている児童が多い。放課後や週末は勉強、塾、習い事等をして過ごす児童が多い。学校や家庭でICT機器を使った学習頻度については都、全国の割合より低い。

学習意欲は高いが、学校で学んだことが将来役に立つと積極的に考えている児童は都、全国と比較して少ない。ICT機器を使った学習については、タブレット配布が昨年度、タブレットドリルの整備や家庭への持ち帰りは今年度始まったばかりで、児童も体験不足である。

## 学校で取り組む具体的な改善策

生活習慣が安定し、児童の学習意欲が高く、学習に関わる基盤が整っているため、さらにその上に確かな学びが構築されるように教育活動を充実させていく。特に、学校の学習と将来との繋がりについては、地域や企業の方の話を聞いたり、体験学習を取り入れたりしてキャリア教育の充実を図り、児童が将来に目標をもって学べるような機会をもてるようにする。

ICTを活用した学習については、さらに整備を進め、情報モラルも含めた指導の中で学校でも家庭でも活用できるようにしていく。